



Veritas In Silico

Bringing new hope with mRNA-targeted drugs

2025年12月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社Veritas In Silico

証券コード: 130A

2025年5月9日



免責事項

本資料は、株式会社Veritas In Silico(以下「当社」といいます。)の会社情報の説明のみを目的として当社が作成したものであり、日本国、米国その他の一切の法域における有価証券の買付け又は売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。日本国、米国その他の法域において、適用法令に基づく登録若しくは届出又はこれらの免除を受けずに、当社の有価証券の募集又は販売を行うことはできません。

本資料の作成にあたり、当社は当社がその作成時点において入手可能な情報の真実性、正確性及び完全性に依拠し、かつ前提としており、将来情報、外部データ等については、その真実性、正確性及び完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

将来の事業内容や業績等に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、「目指す」、「予測する」、「想定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「企図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」又は将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他の類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいて作成しており、これらの記述の中には、様々なリスクや不確定要素が内在します。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の将来における事業内容や業績等が、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なることとなる可能性があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。

2025年12月期 第1四半期ハイライト

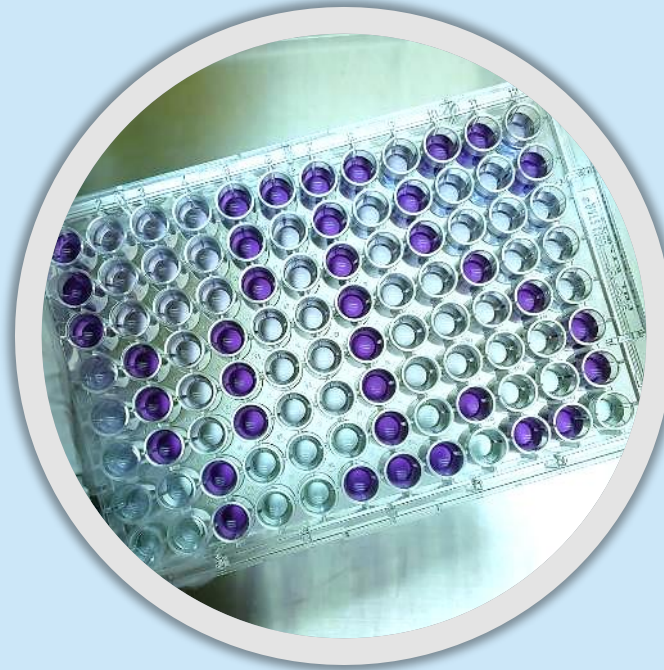
プラットフォーム事業では、新規契約締結の交渉を継続、着実に前進中
製薬会社とのmRNA標的低分子創薬研究は計画通り推移

自社パイプライン(核酸医薬品)の対象となる疾患および遺伝子候補を選定中
ハイブリッド型ビジネスへの転換を推進

第1四半期の事業収益は24百万円、事業費用は105百万円、
四半期純損失は79百万円

2025年12月期の業績予想は変更なし

※ 本資料作成日時点において、2025年4月に米国政府が打ち出した関税措置による、
当社の事業活動や経営成績、財政状態への特段の影響はありません。



1 事業ハイライト

Business Highlights

2025年12月期 第1四半期の事業進捗

1月

パイプライン事業(低分子医薬品)

LCC Therapeuticsとのキックオフ
パイプライン創出に向けた準備開始

2月

パイプライン事業(核酸医薬品)

自社パイプライン選定のための疾患及び遺伝
子候補の社内検討実施(現在最終候補3つ)

3月

プラットフォーム事業

共同創薬研究を計画通り推進
新規契約締結に向けた交渉の継続

欧州企業との新規CDA締結

欧州企業との新たなCDA締結
により、CDA下で交渉中の企業
数は 6社→7社に増加した。

投資家との対話

期末決算発表後に決算説明会
(機関投資家向け・個人投資家向
け)を開催。参加者との質疑応答
や意見交換を行った。



個人投資家向け説明会の収録現場にて

2025年度新規特許の出願①

将来の事業基盤となり自社パイプ
ラインの事業価値を向上させる可
能性がある新たな特許を出願した。

海外機関投資家との対話

外資系証券会社主催のスモール
ミーティングに参加、海外機関投
資家と対面での面談を実施した。

各製薬会社との共同創薬事業において実績が積み上がっている

プラットフォーム型ビジネスでは、製薬会社4社とのmRNA標的的低分子創薬事業が計画通りに推移した。

主な提携先	提携時期	対象疾患	創薬研究進行段階	経済条件
 Innovation by Chemistry	2021年7月	非開示	 製薬会社との共同創薬研究で最も進んでいるプロジェクトは「ヒット化合物検証」の段階	・ 契約金非開示 ・ VIS化合物持分あり (注)
	2021年11月	感染症 精神・神経系疾患		・ 契約金最大850億円 ・ ロイヤリティあり
	2022年12月	がん領域		・ 契約金非開示 ・ ロイヤリティあり
	2023年6月	非開示		・ 契約金非開示 ・ ロイヤリティあり

(注) 東レとの共同創薬研究では、医薬品候補化合物の権利は東レと当社で共有し、当社は化合物の持分に応じた収益を受領する。

パイプライン創出に向けた方針および今後のタイムライン

パイプライン創出に向けた遺伝子候補の社内検討について、特に市場性を重視することで現在の株主価値に資する現在価値の高いもの(i)(ii)(iii)、加えて、核酸医薬品(ASO)の特性(iv)と当社の技術の強み(v)を活かせるものを選定する。



FY2025

候補選定・創薬研究

最初の標的遺伝子選定後、パイプライン創出に向けた創薬研究実施

FY2026

非臨床試験開始

細胞を用いた試験により薬効などを確認

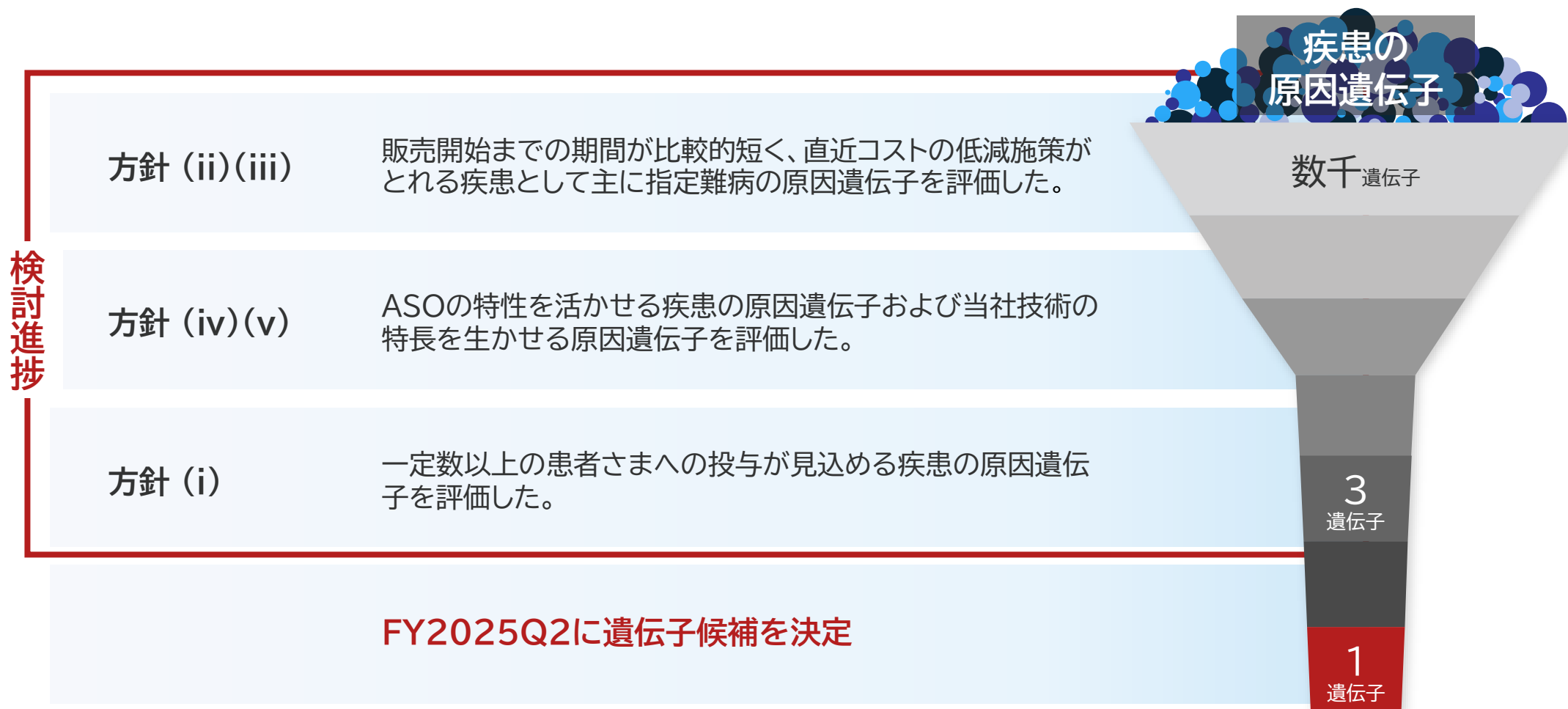
FY2027

非臨床試験対応

動物を用いた試験により薬効などを確認

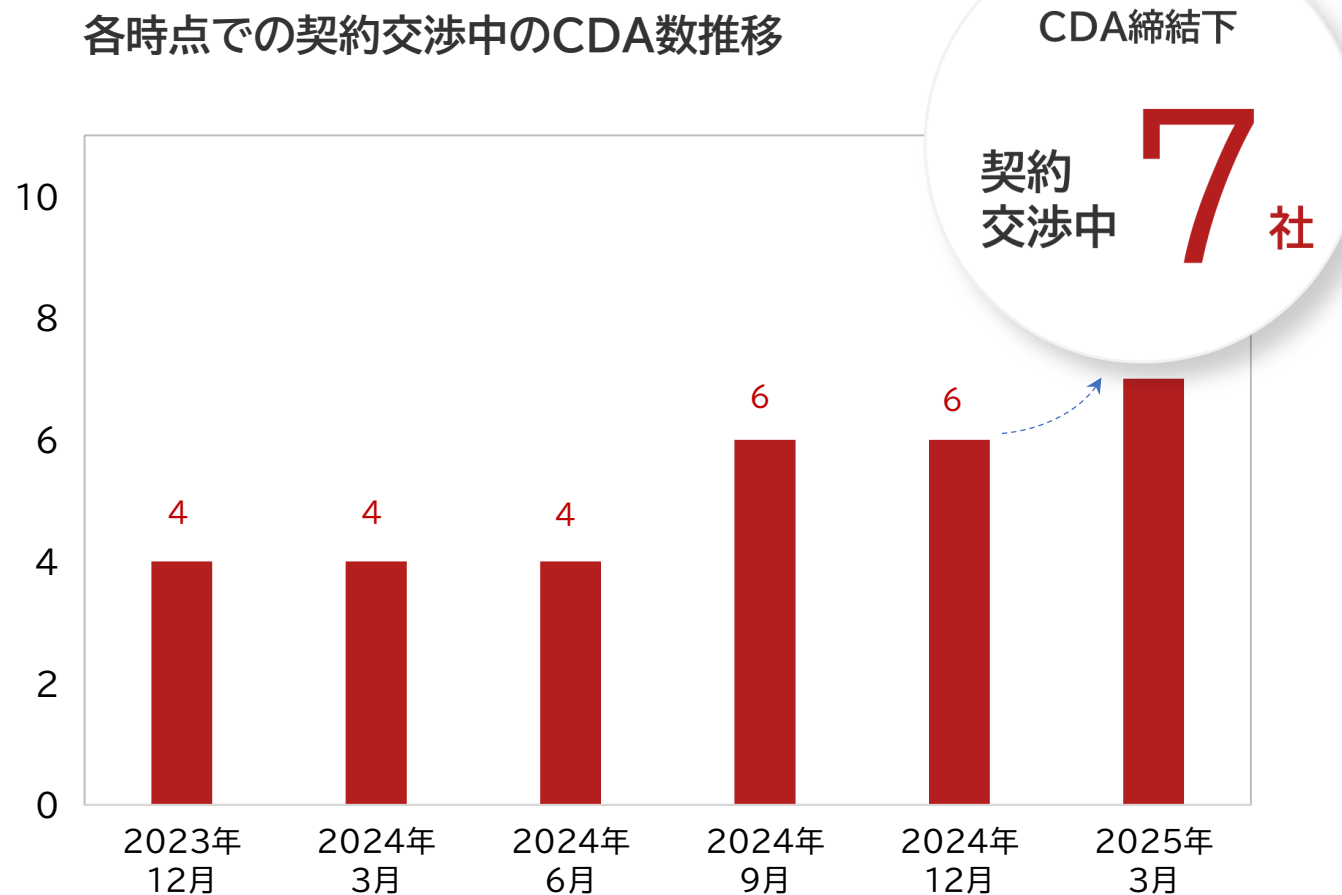
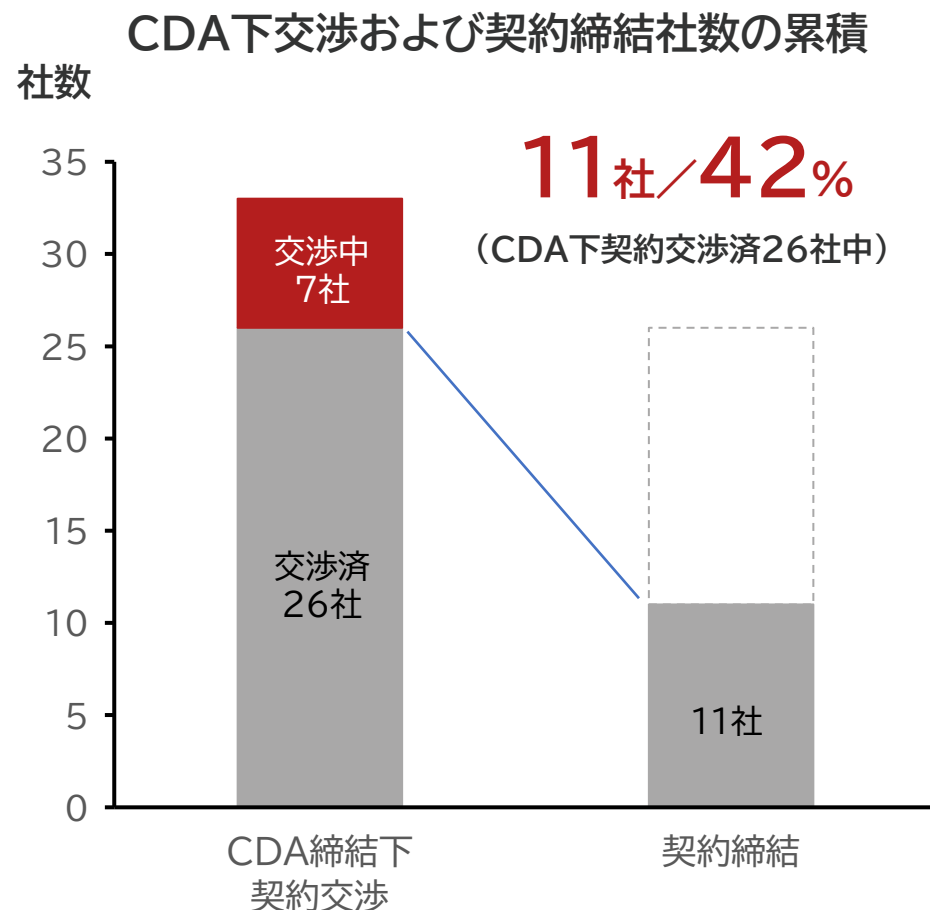
パイプライン選定のための遺伝子候補の検討

疾患の原因となる遺伝子(原因遺伝子)の中から、当社のパイプライン選定の方針(i)～(v)に基づき、遺伝子候補を3個にまで絞り込んでいる。
2025年第2四半期中に3個の中から遺伝子1個を選定し、第3四半期にはパイプライン創出のための創薬研究を開始する予定である。



年間2社との新規契約締結に必要な秘密保持契約数の確保

秘密保持契約(CDA)を締結した製薬会社のうち、交渉の結果契約締結まで至った確率は約42%、CDA締結から契約締結に至るまでの期間(中央値)は14か月。
2025年以降も毎年2社と契約締結するため、その数を期待できるCDA数を確保するように事業開発を合目的的に展開している。



2025年12月期 第1四半期の講義・講演活動

講義・講演を通じてアカデミア等と良好な関係を構築するとともに、当社創薬技術の向上ひいては日本の科学技術会に貢献する。

東京科学大学講義



東京科学大学(旧東京工業大学)ライフエンジニアリングコースの講義シリーズ「産業デザイン」にて、弊社代表・中村が産業生命理工学院・生命理工学系および物質理工学院・材料系の留学生向けに講義した。

講義では、将来のキャリアパスにおいて、専門性を複数持つことの重要性についてを説明した。

大阪大学 産研テクノサロン



大阪大学産業科学研究所主催の第113回産研テクノサロンにて、弊社代表・中村が講演した。

産研テクノサロンは、アカデミア研究者と産業界との交流を目的としており、今回のサロンでは、「核酸標的創薬の最前線」をテーマに議論が交わされた。

日本化学会 第105春季年会



日本化学会第105春季年会のイノベーション共創プログラム(CIP):未来の医療を支えるバイオベンチャーの新たな戦略および論説フォーラム「化学キャリア革命:就職活動の新常識」にて、弊社代表・中村が基調講演を行った。

2025年12月期 第2四半期以降のスケジュール

FY2025
Q2

FY2025
Q3以降

パートナー企業との
共同創薬研究の推進

新規契約の締結
見込み

国際学会の招待講演に
CSOが登壇



20th Annual Drug Discovery Chemistry
(米国カリフォルニア州 San Diego)にて

国際学会にて
新川崎研究所長が発表

最初の自社パイプライン
について遺伝子決定

将来の事業基盤となる
2025年度特許出願②

新川崎研究所にて
研究員2名増員



新メンバーを迎えた新川崎研究所の研究員たち

自社パイプライン(核酸医薬品)
創薬研究開始

将来の事業基盤となる
2025年度特許出願③

個人投資家・機関投資家向け
半期決算説明会開催 等

各種展示会への参加 等



2 財務ハイライト

Financial Highlights

2025年12月期 第1四半期業績概要

mRNA標的低分子創薬事業にて各パートナーとの共同創薬研究が各々計画通りに進捗し、事業収益は研究支援金24百万円を計上した。
2025年度は、第2四半期以降の新規契約締結の契約一時金および進行中の共同創薬研究から得られるマイルストーン収入、研究支援金等で黒字回復の見込み。

(要約)損益計算書 (単位:百万円)

	2024年度 第1四半期実績	2025年度 第1四半期実績	増減額	増減率	2025年度第1四半期 主な内訳 (単位:百万円)
事業収益	32	24	△8	△25.0%	うち 研究支援金 24
事業費用	97	105	7	8.2%	うち 研究開発費 41 販売費及び一般管理費 63
営業利益	△65	△81	△16	—	
営業外損益	△22	1	23	—	
経常利益	△87	△79	7	—	
四半期純利益	△87	△79	7	—	

四半期業績の推移(FY2023Q3～FY2025Q1)

(要約)四半期会計期間損益計算書 (単位:百万円)

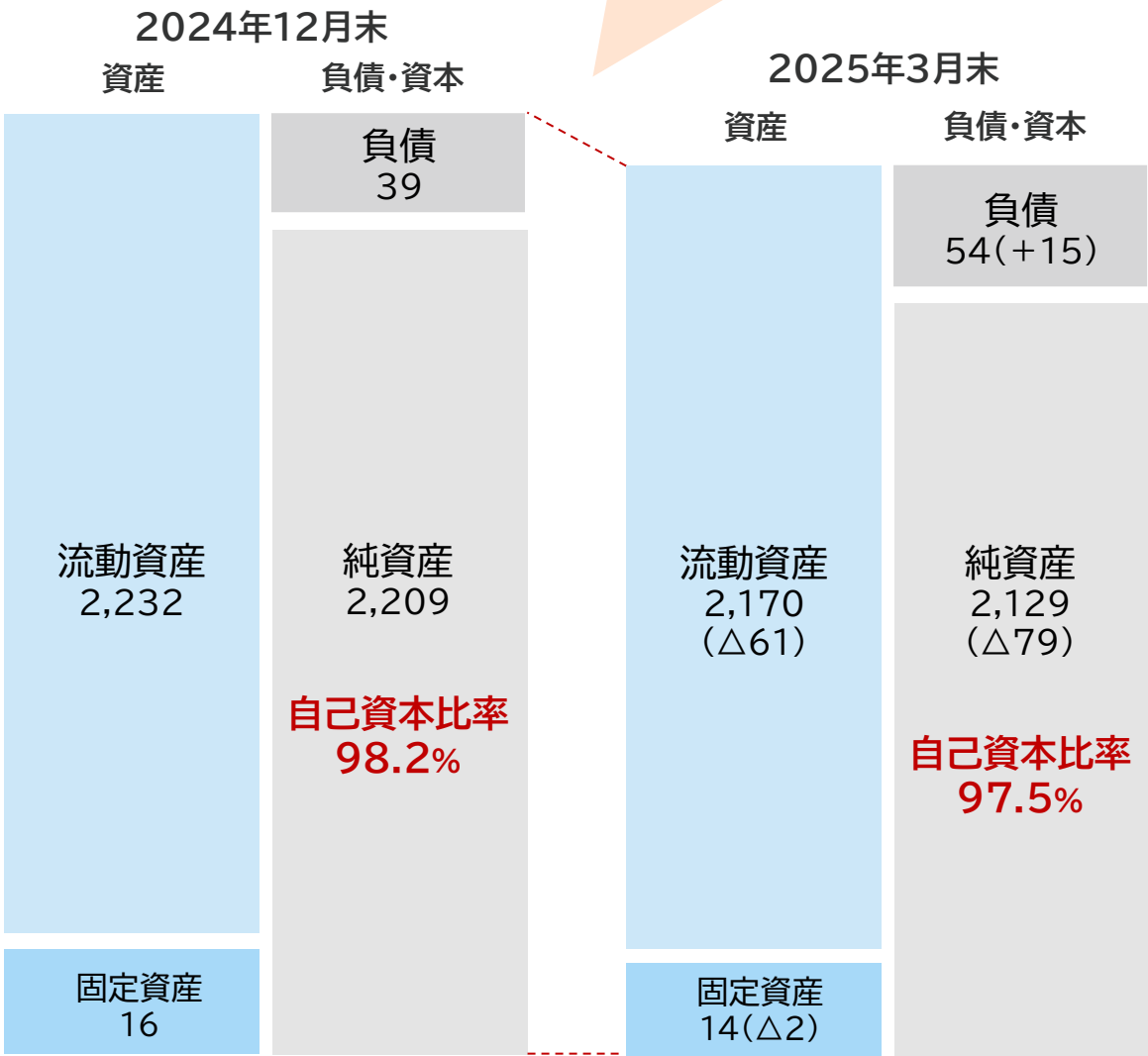
QoQ	FY2023 Q3	FY2023 Q4	FY2024 Q1	FY2024 Q2	FY2024 Q3	FY2024 Q4	FY2025 Q1
事業収益	29	81	32	83	49	29	24
事業費用	80	83	97	85	104	120	105
営業利益	-51	-2	-65	-1	-54	-91	-81
営業外損益	-1	0	-22	0	0	1	1
経常利益	-53	-1	-87	-1	-54	-90	-79
四半期純利益	-53	-2	-87	-2	-55	-90	-79

財務状況の推移

貸借対照表の推移（単位:百万円）

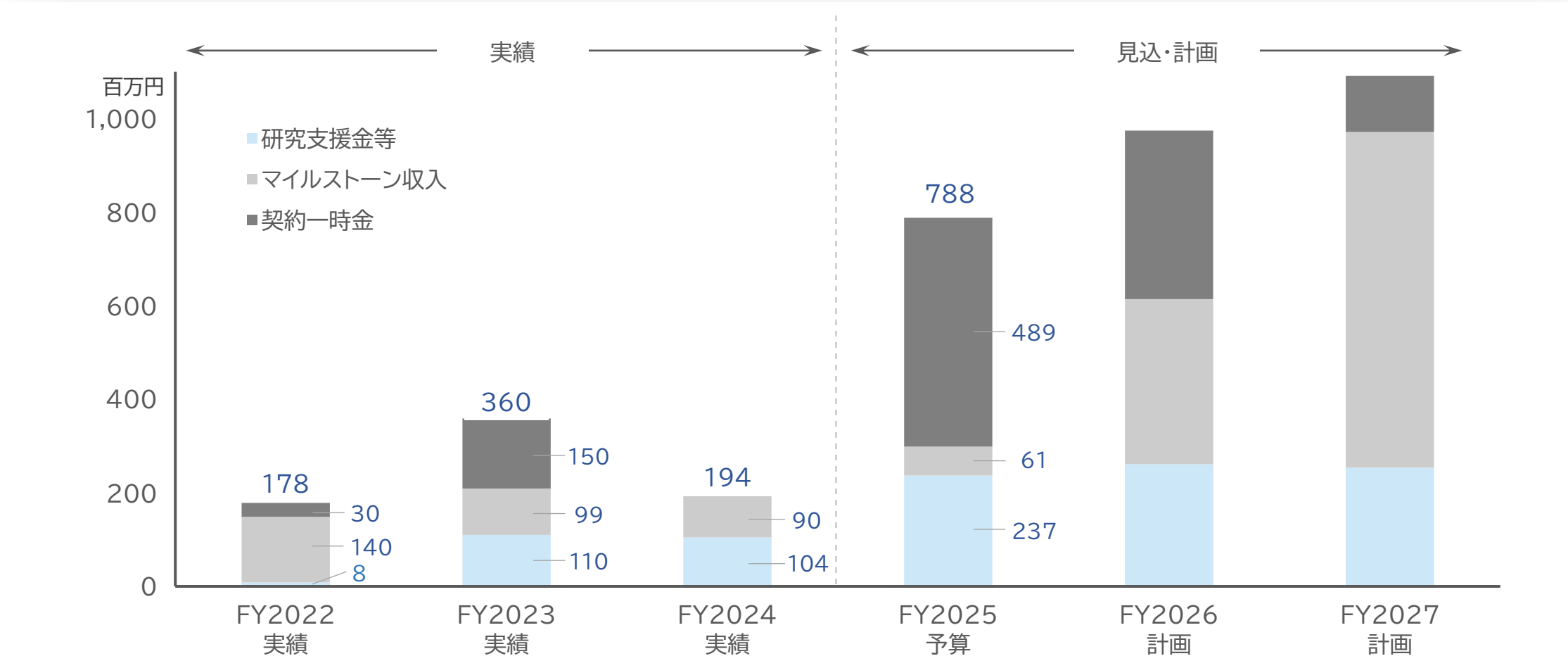
	2024年度 期末	2025年度 第1四半期末
現金及び預金	2,173	2,112
流動資産合計	2,232	2,170
有形固定資産	14	11
固定資産合計	16	14
資産合計	2,248	2,184
負債合計	39	54
資本金	77	77
純資産合計	2,209	2,129
負債純資産合計	2,248	2,184

バランスシート推移



各年度 事業収益の実績及び見込/計画

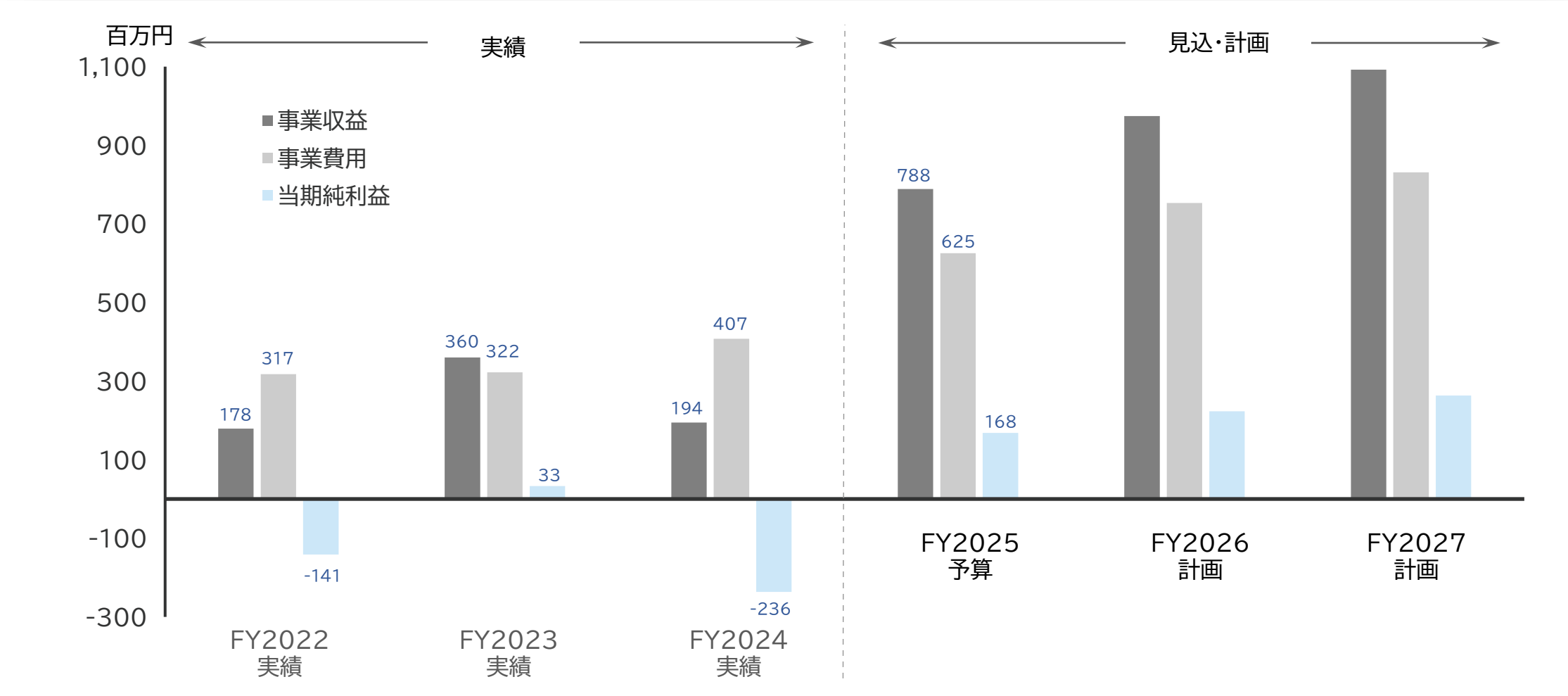
2025年度以降は、各年度にて複数の新規契約を締結するとともに、共同創薬研究を着実に進捗させ、研究支援金等の安定的確保を図る。



(注) グラフの2025年度から2027年度は、契約締結が見込める顧客・案件別の期待収益額の積み上げをもとに作成している。計画の数値は非開示

各年度 収支の実績及び予算/計画

2025年度以降の中期経営計画期間中、新規契約の締結やマイルストーン等の達成により黒字回復を図る。





理念

mRNAを標的とした創薬で 希望に満ちたあたたかい社会の実現を

創薬のフロンティアを
切り拓くパスファインダー
(Pathfinder)として

どんな疾患の患者さまも
最適な治療が
受けられるように

